

# つくる会 FAX 通信

第 265 号 平成 21 年(2009 年) 9 月 29 日(火) 送信枚数 3 枚

TEL 03-6912-0047 FAX 03-6912-0048 <http://www.tsukurukai.com>

## 次期採択戦でシェア 10%をめざす！ 22 年度検定には「歴史」「公民」を申請 組織強化のため会員拡大に全国で努力 次期教科書発行のためにカンパ活動を展開

### つくる会第 12 回定期総会を成功裏に開催

新しい歴史教科書をつくる会は、9 月 26 日午後、東京都千代田区永田町の星陵会館に全国から 88 名の正会員が出席、念願の歴史教科書「シェア 1 パーセントの壁」を破った熱気のなかで開催されました。

総会は、国家「君が代」斉唱に続き、東京支部小野泰彦幹事の「設立趣意書朗読」で開幕。藤岡信勝会長挨拶のあと、議長に高森明勅理事を選出し、議事に入りました。

議事は、第 1 号議案「役員承認の件」、第 2 号議案「前年度事業報告及び決算報告の件」、第 3 号議案「今年度事業計画及び予算の件」について、それぞれ執行部から提案され、熱心な議論の後、満場の拍手で採択されました。

前年度事業報告のなかでは、横浜市での採択を実現した保科直美神奈川県支部長から特別報告が行われ、会場から盛んな拍手が送られました。

なお、今年度事業計画を提案した藤岡会長は、2 年後の次期採択戦では「シェア 10 パーセントをめざす」ことを明らかにし、小山常実理事は「公民教科書」の編集方針について説明を行いました。

続いて、第 4 号議案「国民へのアピール(案)」が渡辺眞理事から提案され、満場の拍手で採択。最後に福地惇副会長の閉会のあいさつで成功裏に総会を終了しました。

また、本総会には、来賓として『新編 新しい歴史教科書』を発行した自由社の加瀬英明社長が出席され、「自由社は今後ともつくる会とともに前進する」との熱いあいさつをいただき、中條高德氏からのメッセージ、下村博文衆議院議員、高市早苗衆議院議員、鳩山邦夫衆議院議員、山谷えり子参議院議員からの祝電が披露されました。

総会後に開催された「懇親のつどい」には、ご来賓を含め 110 名が出席。濱野晃吉理事の司会で、藤岡会長がまずあいさつ。続いて評論家の宮崎正弘氏の発声で乾杯と続き、ご来賓の各位、各支部長が次々と演壇に立ち、懇親会はつくる会の今後の前進を期して大いに盛り上がりました。

(本総会の詳細については、10 月末発行の「史」11 月号でご報告します。)

#### 新役員名簿

会 長	藤岡 信勝	(拓殖大学教授)
副会長	杉原誠四郎	(元武蔵野大学教授)
副会長	高池 勝彦	(弁護士)

副会長	福地 惇	(大正大学教授)	
理事	梅澤 昇平	(尚美学園大学教授)	新任
理事	小山 常実	(大月短期大学教授)	
理事	高森 明勅	(日本文化総合研究所代表)	
理事	豊島 典雄	(杏林大学教授)	新任
理事	濱野 晃吉	(コンサルタント会社社長)	
理事	吉永 潤	(神戸大学准教授)	
理事	渡辺 眞	(ソフトウェア関連会社社長)	
監事	川又 和敏	(元小・中学校教員)	新任
監事	平野 富國	(元・藤沢小田急代表取締役社長)	
顧問	井尻 千男	(拓殖大学日本文化研究所顧問)	
顧問	加瀬 英明	(外交評論家)	
顧問	田久保忠衛	(杏林大学客員教授)	

(退任理事)

上杉 千年  
九里幾久雄

「今年度事業計画」(第3号議案)

(1) 歴史・公民教科書の制作と検定提出

新学習指導要領にもとづく中学校教科書の検定は、平成22年4月に開始します。これに向けて、現在、『新しい歴史教科書』と『新しい公民教科書』の制作作業をおこなっています。

このうち、歴史教科書は、現行自由社版の長所を生かしながらも、内容、形式ともさらに一層磨きをかけたものとなります。特に、歴史教科書のありかたについて、いくつかの点にわたって、画期的な問題提起を行う予定です。

公民教科書については、ゼロベースからの制作となりましたが、こちらも今までの公民教科書の定型を打破した、画期的な内容となります。

歴史教科書の編集については、支部や会員の皆様から貴重なご意見をいただきました。それを生かした教科書づくりに取り組んでおりますが、それを超えて、つくる会の支部が郷土の教材づくりに参加していただくよう、呼びかけたいと考えています。

(2) 2年後の採択をめざす活動

今年度の採択戦では、横浜市の公立校8採択区で採択されたこと、直接接触のなかった私立学校でも採択されたことなど、画期的な成果をあげました。

今年度採択された教科書は2年間しか使用されず、2年後の平成23年4月からは、次回の採択戦が待ち構えています。2年後の採択戦では、シェア10%を目指します。その採択戦は、すでに始まっているという立場で取り組みたいと思います。

そこで、各支部・会員におかれましては、

今年度の採択資料を集め、本部に提出するとともに、支部でも独自に分析し、次回採択戦の方針決定に役立てること

今から各採択地区の分析を行い、必要な手立てを講じること

必要な場合は、採択地区の適正な分割・再編について教育委員会に働きかけることなどの活動を進めて下さい。

(3) 教科書作成のための募金活動の取り組み

歴史と公民の教科書を作成し、1万3千部の見本を送付するためには、新たな資金

が必要です。そのため、この10月から、募金活動を提起します。期間は来年3月まで、目標額は5千万円とします。

#### (4) つくる会組織の拡大と充実のための活動

市販本『日本人の歴史教科書』の発売と横浜市などで自由社の教科書が採択されたことなどから、当会への国民の関心と支持が広がっています。そこで、上記の募金活動とも結びつけて、会員を拡大する好機が訪れています。この機会を逃さず、一挙に会員を増やし、組織を強化・充実させる必要があります。

そのために、本部としても魅力的な入会案内や、会員拡大の武器にもなる「史」の内容の一層の充実など、必要な手立てをとります。支部からも、さまざまな知恵を出していただきたいと思えます。

11月3日の、「天皇論」シンポには、会員の優先受付と特別割引制度が適用されます。そうしたこともあって、このところ新規入会者が相次いでいます。

今後は、会の強化と結びつける形で、適宜、シンポや講演会を開催していきます。

#### (5) 緊急の政治課題への取り組み

民主党政権の誕生によって、日本の政治には、かつてなかった新たな局面が生まれています。当会は、特定の政党を支持するものではありませんが、教科書、教育、およびその動向に密接な関わりのある政治課題については、会の明確な意思を表明し、支部のメンバーを中心にした取り組みもおこなってきました。

民主党政権の誕生にともなって、一例を挙げれば、「人権擁護法案」の再浮上など、実際には当会の活動と言論そのものが封殺されてしまいかねない状況が危惧されるなどの問題が生じています。これらの動きには、当会としても明確な意思を表明し、戦って参ります。

11月3日開催の天皇論シンポは一般の方々からの申し込みが数多く寄せられています。会員の方は、お早めにお申し込みください。